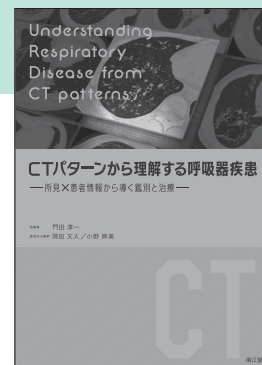


CT パターンから理解する呼吸器疾患 —所見×患者情報から導く鑑別と治療—

門田淳一／総編集
岡田文人、小野麻美／画像担当編集



B5 494 頁 2018 年
定価：本体価格 12,000 円＋税
[ISBN: 978-4-524-25494-1]
南江堂刊

呼吸器内科を学ぶ先生方必須の書

評者 宮本 篤 虎の門病院呼吸器センター内科

門田淳一先生を筆頭に大分大学の先生方の英知が結集された、新しい形の画像診断の入門書『CT パターンから理解する呼吸器疾患—所見×患者情報から導く鑑別と治療—』が刊行された。今や CT は呼吸器疾患診断に必須のツールとなった。肺は肺循環系、体循環系、リンパ管系に気道と、複数のシステムが混じり合う複雑な機能解剖で成り立っている。これらに病的変化が加わって、CT ではどのように表現されるのだろうか？ 例えば「コンソリデーション」はときに細菌性肺炎、慢性好酸球性肺炎や、浸潤性粘液腺癌であったりするなど、パターン認識＝単一の呼吸器疾患といった 1 対 1 対応ではないことが、特に初学者の先生方にとって混乱の原因になっている。また、年齢/性別などの基本情報、自覚症状/身体所見、血液検査などの臨床情報から鑑別を挙げて優先順位をつける、というプロセスはどの診療科でも重要であるが、呼吸器疾患ではことさら画像所見の鑑別と密接な関係があり、これらを結びつけ診断に至るステップが難解かもしれない。

本書にはそのような鬱憤を晴らすための、様々な創意工夫がある。冒頭で、画像所見を手がかりにどのように読影を進めるのか、decision tree とカラーアトラスを用いて豊富な画像を提示し、鑑別疾

患がわかりやすく解説されている。例えば、「びまん性粒状影」では、疾患により大きさや性状、肺内での分布が異なることが示され、decision tree に書いてある語句が視覚的に理解できる。

第Ⅰ章では代表的な CT パターンの病理学的な成り立ちを解説している。それぞれの疾患が解剖学的にどこを首座とする病気で、正常構造にどのような変化を与えるのか、つまり病理所見が CT ではどのように投影されているのかを認識するために重要な情報が記載されている。第Ⅱ章ではそれぞれの CT パターンを呈する患者さんからどのような情報を聴取し、検査を追加して、鑑別診断を進めるかが解説されている。詳細なフローチャートが示され、患者さんからの臨床情報と画像所見をどのように組み合わせれば良いのかが理解できる。また、各疾患の診断基準などがコラムにまとまっていてわかりやすい。第Ⅲ章では、これまでの知識をどのように症例で生かしたら良いのか、症例検討を通じて確認できるように工夫されている。

本書は呼吸器科を志す初学者の入門書として、または専門医を取得しようとする先生方の知識の整理のためにぜひ読んでいただきたい。典型的な画像が多数収載されており、専門医の先生方にとっても多いに参考になる一冊と思う。